

L'horloge

Osaka Gakuin University
Public Relations
ロルロージュ No. 115
January 2002



『シンガポールを知るための60章』

長岡 みゆき 国際学部 教授 共著
明石書店



『新律綱領・改定律例編纂史』

藤田 弘道 法学部 教授 著
慶應義塾大学出版会



『ROM単 発想が変わる会話の キーポイント60 (CD-ROM単語帳付)』

中川 準治 経済学部 助教授 著
三修社



『人を動かす文章づくり ～心理学からのアプローチ～』

山本 博樹 流通科学部 助教授 共著
福村出版

大阪学院大学広報

L'horloge ロルロージュ No.115
January 2002

- 発行 大阪学院大学
大阪学院短期大学
- 編集 広報部

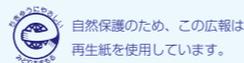
〒564-8511
吹田市岸部南二丁目36番1号
☎(06)6381-8434(代表)

URL
<http://www.osaka-gu.ac.jp>

編集後記

新しい年を迎え、まずは感謝の心を込めて合掌。
振り返れば、2001年は経済不況、リストラ、テロ事件、戦争と喜ばない出来事を強く印象づけた年であった。それも、構造改革と抵抗勢力、敵と味方、悪と正義といった言葉に代表されるように、これまた常識といった言葉を背景に議論の余地なく、右か左かの踏み絵を迫った感をぬぐい切れない。

ところで、困難な問題に直面すればするほど、指導者は強いリーダーシップの発揮を求められる。強いリーダーシップとは、主観的な常識を盾にした専制的で脅迫的なものではなく、客観的な常識、すなわち健全な社会人が共通に持っている普通の観念に裏打ちされたものでなければならない。そこに、賛成意見による一方的な解決策や反対意見との妥協的な解決策ではなく、両者を納得させ、受け入れさせることのできる創造的な解決策が期待されるのである。本年こそ、すべての分野でそうした強いリーダーシップの展開を望みたいものである。



自然保護のため、この広報は
再生紙を使用しています。

ESSAY
工藤 一郎

FOCUS
国際センター

VOICE
社会人への道

CAMPUS LIFE
CAMPUS NEWS DIGEST
INFORMATION
新刊紹介

『我が書齋事情と古書収集』

定年後の生活を夢見ることがある。最上川を上がったどん詰まりの故郷で、ランブが下がっている溪谷の湯に浸っている。『歳時記』1冊持ってゆったり一人で杯をかたづけ過している。遍路姿の白装束でアマゾン川の岸辺に立っている。ボランティアも太秦のエキストラetc。この間も、情報学部長の鎮西先生と一杯飲みながら、話は退職後の生活に落ち着いたのであった。

書齋の窓外を見やると東山はるか上、暮れなずむ濃紺色の空に片鎌の月が輝き、比叡の山頂に明かりが一つ、星のように木枯らしに震えている。周りの書棚を見る。「一体いつまで読みもせずここに置くのか」と、鬼哭啾々、幻聴だろうか、いや、それは私の内心の声が聞こえているのかもしれない。それとも積ん読されている人類の師が監視しているのだろうか。

やがては読まなければならない書物が山のようだ。外国文学に限っても、ギリシャ悲劇、チェホフ、ブルスト、逍遙のシェークスピア。詩については、辞書を引ながらでも注（人文科学研究所『人文学報』）を参考にしながら、ボードレー、それにリルケも。大好きな明治もの、鷗外・露伴・鏡花・荷風の各全集も待っている。ほかに専門分野の書物も控えているのに。百万遍知恩院での青空古書市へ出かけた。本殿の階段で座りながら、お昼をパンと水でそそぐさ済ます。最近目につくのは、百円均一の積み台が数年前に比べるとめっぽう多くなったことだ。9月11日以後、急ぎ出版されたイسلام関係や若い芸能タレントの自伝の平積み本みたいな、初版は何百万、売れ残れば断裁行きの本が大半である。中には宝石みたいな本もある。20冊ほど拾い出した。薄田泣菫『茶話全集 下』（創元社、昭和15年）の離れ、ただし表紙破れと『大日本古文書』1冊もある。そのあとタイムサービスというのか、ビニール袋を1枚500円で買い、なんと入るだけの本を袋詰めにするというのがあった。文庫本などは30冊ぐらいい入る（コーヒー1杯分！）。そこまで手が回らなかったが、中野好夫 訳『デビット・カッパーフィールド』4冊など残念なことをした。まじめな出版業者が目すれば、将来を悲観して廃業したくなるのではないか。会期中、中1日はどしゃ降りだったが、笑われながら3日も通った。以下専門外から目ばしい収穫本二つ三つ。

- ① 小学館『世界美術全集』印象派、後期印象派、フォービズム、表現派 4冊
- ② 平凡社原本 宮地直一ほか『神道大事典』3冊
- ③ 『折口信夫全集』（古代研究1・2・3巻）中央公論社

①は定価2万2千円がたったの2千円。なぜだろう、いい出版だと拍手したものだったが阪神大震災以後、大型本は売れなくなったと書店は言う。この重い本4冊持って、やっとたどり着いた途端、偶然居合わせた娘に持ち去られてしまった。

②は以前から欲しかった。初版では昭和12年平凡社、神道全盛時代だからこそできたもの。その後、これを越すのは無理であろう。複製第1刷が昭和44年、これが第9刷の昭和56年で2万円。

③は昭和30年発行で、端本を拾って3冊900円。最近、古書目録を練っていたら、6千円とある。岩波文庫のワイド版、新古書で3、400円で買えるものもある。驚いたなあ。

岩波『日本文学大系』などは場所を取る。毎年少しずつ集めてきたのが、あと1冊、『今昔物語一』で百冊全部そろろう（どなたか見付けいたら乞教示）。そのときは大系を前に、一つひとつ購入時のエピソードを想起し、ちびちびやりながら、ささやかな書祭をやる。まずは、われらが国の日本文学から始めようと決心したのは、昭和32年第1期配本『万葉集一』からであった。昭和43年第2期索引まで10年。配本同時に入手したのが第1回だけで、過ぎ行く人生やりくって、老いの坂道30年、古本で楽しみながら細々と集め今日に至る。原則は、1回に1冊千円以下、箱帯付きはもちろん月報ざろい（叢書の月報だけ集める趣味もある）、できればハトロン紙カバー付き。現在も某書店では『日本書紀』上下2千800円で売っている。

苦い思いもあるが、ここまで6万円ちょっとだから、いい線いってると自己満足。集めるのはよいが読むほうはどうだ、といわれると恥ずかしい限りである。観世水のそば近く、住んでるためのご利益か、能・狂言をはじめとし、文楽、歌舞伎に至るまで、見聞機会多いので、あっちに飛び、こっちに移りでなかなか読書はかどらない。とっつきにくいといわれる平安時代（源氏、日記・随筆）が終了したばかりだ。現在収集中は柳田國男で『昔話と文学』（昭和13年12月）『創元選書一』から始めて戦後まで、まだ11冊だ。全集なら一度で入手完了だが、この本には彼独自のページごと、耳にそれぞれ違った内容事項が付されているので、おのずと索引になっている。

子供3人、共稼ぎ時代、狭い部屋の中は散らかり放題、階段までも書物があふれ、連れ合いはついに悲鳴を上げて、ワルルームを借り、一人で別に住みたいという始末。ガレージを壊して特別頑丈な書庫を作る羽目になったが、皮肉にも数



工藤 一郎 国際学部 教授

担当科目：図書館文化史

趣味：宗教音楽・中世美術……

見るもの聞くもの何でも好き。

著作：『論語子罕篇二則』・『魏晉南北朝目録の諸相』・『徽州版画隆盛考』

年で引越した。今は老夫婦だけで何となく寂しく広すぎる。近ごろ、じわじわと水がしみ込んでくるように、居間のフロアに書物が侵入し始めた。一番の大敵（友人でもある）は、平凡社『百科事典』だ。これはこの夏、糾の森の青空市で新本同様17冊5千円で購入。タクシー乗り場まで喜んで運んでくれたので、お礼にジュース5本。欧文堂、臨川、キクオの皆さんありがとう。身丈の倍ほど積んだ本の谷間を、おなかを引っ込め体を横に、やっと通れる所もあるが、京都の古書店さんは親切だ。先輩いわく「夏休みなど山ごもりの原稿書きには、この重いのを持ってエイコラだったが、最近フロッピー2枚で足りるので大助かり。昔は大変だった」としみじみ言う。昭和59年11月に第1巻、翌年6月に最終16巻索引完成、いかにも平凡社らしく合理化作業の成果である。『別冊統計資料便覧』1冊を除くと平均1巻当たり文庫本30冊分の情報量で300円ということになる。学生諸君に空間が許せばお買得といったら、一人だけ購入してくれた。昔この詳細な索引を渡り歩いて、牢獄の中で論文をものにした福田徳三という学者もいた。

先日、大阪高尾書店の目録に『松本清張傑作短篇総集』（講談社 墨筆サイン入 箱美 昭和52年 1冊8千円）とある。早速出かけた。見返しに毛筆で勢いのある筆圧、いかにも彼らしい几帳面な、さっと一気なサインだ。おまけに所蔵者が写したと思われる清張氏のスナップ写真（77.1.16のアリバイ付き）まで挟み込んである。1,058ページの大冊を朝から晩まで、2日ばかりで読了したが、清張密室ワールドでしばらく頭がボーっとした。関西にはあまりなじみのある本屋さんがないが、店の主人からいろいろ話を聞けるのが楽しい。清張氏は寡黙でじーっと書棚を眺めているが、かたや司馬氏となると気さくで話し好き、こっからこまごまでの買物で有名だ。開館したばかりの記念館には全く恐れ入る。百科事典1セットぐらいで、なぜ連れ合いの顔が浮かんでこなければならぬのか、我が権威なさに情けなくなる。国民的大作家と比する厚顔無恥に気づき、まず「なんじ自身を知れ」との天の声が聞こえてくる。

挟み込みといえば、旧蔵者の人柄まで分かっただけおもしろい。浅草ロック座のナチスの宣伝映画パンフレットや、中には「大正12年5月1日クライスラー帝劇演奏会」がある。これを挟んであった本は、白秋の弟、鉄雄のARS出版の『世界各国ポスター集』原色版付き（昭和4年2月）で、なぜか知らぬが非売品。大震災の直前、ようやく普通の人もビールが飲める時代になったころである。このように表紙をなでたり、挟み込みパンフレットを眺めたりするのが、五感を動員しての読書というのであろう。

哲学や文化を話題にして楽しませてもらっている吉田(正)先生に『九鬼周造全集』12冊（岩波、1981）が近くの小さな店に2万5千円で出ていて紹介したら喜ばれた。時々立ち寄っては、まだ書棚にあると、だれかに先を越されないかと気になったものだ。ほかの古書店では4万円から7万円まで、いろいろな値段がついている。ひっそりと店番しているおばさんは、書物のこと皆目ご存じない。古書店のかたがた、特に若い人は書物の勉強が足りないのではないか。昨年の出版点数は6万7千点（1日150点！）とあるからには、「とてもそんなわずかなことまで覚えきれませんよ」と主人がいうのもっともだ。買うほうの身になれば、あまり詳しくなられても困るのだが。

京都観光にきた友人には川端康成『古都』（新潮社、昭和38年）を贈呈することにしている。これは東山魁夷・北山杉の巻頭絵付き箱入りである。文学的京都観光風俗の格好の土産品になる。最初2千円で購入したが、最近では200円のもあった。見付けしだい購入して今は3冊ほど手元にある。現在、新潮文庫でも買える。あれこれ金額を挙げて申し訳ないが、貧乏性なのでお許しを請う。思えばアングラ劇場、フランス映画に感嘆した青春時代。こんなこと、話していけばいつまでも切りがたい。

このエッセイを執筆する際、まず浮かんだタイトルは「我が青春のジュリアン・デュビュ」だ。文春(01・11)で双葉十三郎「僕が選んだ究極の映画100本」を読んだばかりだからである。ビデオ40本持っておられる図書館長の谷口先生は、そのうち76本は見たそうだ。私は300本（3倍モードで900本！）近くで、見たのは60本になるということで、青年のように話が弾んだのは最近のことだった。百年前のメリエスから残り40本、またまた増えてしまった楽しい宿題。魂魄この世にとどまって、これでは死ぬにも死にきれない。

『大阪学院大学広報』は装いも新たに出発した。「学生に薦める私のベスト3」なるアンケートなどどうだろうか。本、音楽、映画、美術何でもありの企画があれば、そのときには飛びつきますよ。ページ上欄の絵は、購入本の8号水彩スケッチでした。せっかくの傑作、小さくなって残念。

FOCUS

～国際センター～

国際センターは、建学の精神に基づき、教育および研究の両面にわたる国際交流の推進ならびに外国語の実践的運用能力を向上させるための調査・研究を行い、本学における教育および研究の充実を図ることを目的として、平成13年4月、従来の国際交流センターと言語文化センターを統合し、新たに2号館2階に設置されました。

上記の趣旨に添って、言語文化、教育研修、交流という主に三つの部門に関連した活動を行っています。

インターネットの普及に伴って外国とのボーダーレス化がますます進み、より一層外国語能力が必要とされる今日、国際センターに期待されるものはさらに大きくなっています。言語文化、教育研修、交流の三部門の活動を通じて学生の異文化コミュニケーション技能と適応力を養い、また常にタイムリーな情報を用意し、あらゆる相談に的確なアドバイスを提供していきたいと考えています。

【言語文化部門】

「海外留学に必要な語学能力向上のため」、あるいは、「就職活動に役立てるため」など各種語学能力検定試験を受験する目的は様々ですが、そのような受験希望者をサポートするため、国際センターでは検定試験対策問題集やカセットテープ、ビデオテープの貸し出しを行っています。各種語学検定試験の受験申込書や受験要項も取りそろえ、希望者に配付しています。またIP (TOEIC学内試験) やITP (TOEFL模擬試験)、実用英語技能検定模擬試験を年数回実施し、気軽に力を試すことができる機会を提供しています。

毎年3月と9月の年2回発行する機関紙「PHOENIX」では、国際センターの活動、国内外の情報のほか、外国語の実力点検のためのページや語学に関する幅広い情報コラムなどを掲載しています。海外事情に精通する執筆メンバーならではの国際色豊かな読み物や新鮮な情報が、外国語習得への関心と意欲を刺激しています。

また、外国語の実践的運用能力を向上させるための教育として、学生、教職員、一般市民を対象とした言語文化に関する公開セミナーを必要に応じて開催しています。

さらに毎年7月には、コミュニケーションな英語力を伸ばす授業を提案し、実践を通して様々な理論や教育方法を身につけることをテーマに、英語教育ワークショップ「ELLC」を開催しています。本学英語教員や米国ハワイ州教育局関係者を講師として実施するこのワークショップには、中学、高校の教員だけでなく塾講師など幅広い層のかたにご参加いただき、好評を得ています。



平成13年度 ELLCワークショップ

【教育研修部門】

海外研修・海外インターンプログラム

夏期・春期休暇を利用し、海外提携大学などの協力を得て行う海外研修には、語学研修とスポーツ研修のほか、海外インターンプログラムがあります。在学中に将来の希望職種に関する職務を体験することで、早い段階から職業に対する考え方や興味、関心を高める機会を提供し、グローバルな視点を持った国際人の育成を目指し、インターンプログラムを実施しています。2001年は四か国の現地日本企業等で実施しましたが、今後研修先を増やすなど、より一層プログラムを充実させていきたいと考えています。積極的に海外での経験をしてもらうために、海外研修および海外インターンプログラム修了者には単位を認定しています。

平成13年度 夏期海外研修参加学生の感想 (一部抜粋)

自分にとってかけがえのない研修になった／喜んで研修に送ってくれた家族に感謝／毎日が新鮮で充実していた／自分自身が大きく成長できた／共同生活で友達がたくさんできた／自分に自信が持てるようになった／さらに語学力を伸ばしたい／日本のよさも改めて理解できた／自ら必死になって勉強に取り組めた／文化の違いを体で感じる事ができた／自分の意識の持ちようでもできることが分かった／前よりも積極的に話せるようになった／感動の連続だった／これからの目標ができた／英語の大切さを改めて実感した／人に流されないで自分らしく行動できた／旅行では味わえないことが体験できた／将来留学したいと思う



【交流部門】

交流部門では、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド、スウェーデン、中国の八か国17大学とのグローバルなネットワークを十分に活用し、交換留学生の派遣および受け入れ、教員や研究員の派遣および受け入れ、国際共同研究の推進など、学術的かつ人的な交流を中心に積極的な活動を行っています。17大学のうち半数の大学とは、双方から留学生を派遣し合う交換留学制度を設立し、毎年約10人の交換留学生を派遣および受け入れています。

また、海外提携大学との学術交流も盛んで、なかでもオルレアン大学(フランス)、パイロイト大学(ドイツ)、本学の3大学共催により毎年行われている国際コロキウムは、各大学の教員による統一テーマについての研究報告と、それについての活発な質疑応答が交わされ、国境を越えて理解を深め合う場となっています。



交換留学制度について

現在、交換留学の派遣先は、セント・トーマス大学、ハワイバシフィック大学、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校(いずれもアメリカ)、オルレアン大学(フランス)、トリア大学(ドイツ)、ヴェクショー大学、ミッドスウェーデン大学、イエブレ大学(いずれもスウェーデン)の四か国8大学です。

本学の交換留学制度を利用して海外提携大学に留学する期間は在学扱いとなり、卒業に必要な修業年数に含まれます。また、留学先での修得単位は60単位(短期大学においては30単位)を上限として本学の卒業に必要な単位として認定され、交換留学中は本学の授業料半額相当額が免除、留学先での授業料が免除(一部大学では学生寮での滞在費も免除)となります。派遣の時期は夏から翌年夏までの約1年間で、募集時期は派遣の前年11月です。募集要項は毎年4月に掲示板にて連絡し、また同月に開催する留学ガイダンスでは交換留学制度についての詳細説明を行います。

また、国際センターでは交換留学だけでなく、私費での留学に関するアドバイスも随時行っています。各国留学事情に関する図書資料も豊富に取りそろえており、貸し出し可能です。

外国人留学生とホームステイ

提携大学から受け入れている外国人留学生は、国際センターが開講している国際交流プログラムの日本語授業を中心に、日本文化などを学んでいます。

国際センターでは、外国人留学生と本学在学学生との交流の場を提供することを目的とした交歓会などを年数回実施し、また必要に応じて日本語授業のヘルパーとして本学在学学生と一緒に授業に出席し、留学生の勉強の手助けをしています。外国人留学生が日本家庭での生活体験を通じて、より多くの日本文化に触れることができるように、本学ではホームステイの制度を採っています。ホストファミリーとして外国人留学生を受け入れていただけるご家庭の登録を随時受け付けています。興味のあるご家庭は国際センターまでお問い合わせください。

ホストファミリーの声

妻の提案でホストファミリーに応募した当初は、その言葉にすらなじみがなく半信半疑でした。しかし、説明会に出席し、強力なバックアップがあると実感した瞬間から、気持ちが固まりました。実際にホストファミリーとして決定し、引き受ける留学生の名前を聞いたときは、なぜかそれまでの不安がなくなりうれしくなりました。我が家は一般的な家庭なので、何か特別なことをするのはなく、今までどおりの生活スタイルでいくことにしました。留学生を迎えに関西空港へ行ったときには胸が高鳴りました。電子辞書を使ってのコミュニケーションに始まり、地域のかたを交えての交流、他の留学生との出会いなど、3か月の間に様々な貴重な体験と感動をさせていただきました。ふだんどおりの生活を費したからこそ、ホストファミリーとして楽しむことができたのだと思います。

小四郎丸 友宏さん(吹田市) 平成12年10月から12月まで、クリスタ・ブラウクさん(カリフォルニア州立大学ロングビーチ校)を受け入れ

ホストファミリー登録について

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 登録：随時受付 | 〔ホストファミリーの条件〕 |
| 説明会：6月(登録者対象) | ・平日の朝・夕2食、休日の朝・昼・夕3食の提供 |
| 受入期間：1～10か月 | ・個室一部屋の提供(和・洋問わず) |
| 外国人留学生滞在期間：10月～翌年7月 | ・本学までの通学時間(片道)は約1時間以内が望ましい |



アルノ・ルジャさん(オルレアン大学)とホストマザーの浅原久美子さん(茨木市)

社会人への道

— 座談会出席者 —

就職部長(司会) 狩俣 正雄 企業情報学部 教授
 経済学部 4年次生 下井 孝祐・(株)伊藤園 内定
 外国語学部 4年次生 越智真太郎・アンリツ(株) 内定
 国際学部 4年次生 日高 恵子・(株)ザ・ウィンザー・ホテルズ
 インターナショナル 内定
 短期大学 経営実務科 2年次生 高城 紀子・月桂冠(株) 内定

【司会】 それでは就職内定者による座談会を始めたいと思います。皆さんがたは、大変厳しい就職環境の中で内定を得たわけですが、そこへいくまでにはいろいろな苦勞もあったと思います。まず、いつごろから就職活動を始めたのかということからお話してください。



司会：狩俣 正雄
 就職部長
 企業情報学部 教授

【下井】 僕の場合、就職活動についての意識は、初めから高かったと思います。就職ガイダンスが始まった夏ごろからずっと心のどこかで意識はしていました。実際に活動を始めたのは年明けです。これまでにスーパーマーケットの食品売場でアルバイトをしていた関係もあり、食品というものを身近に感じていましたので、おのずと食品関係の企業を中心に就職活動を進めていきました。

【司会】 どんな準備をしたのですか。

【下井】 まずパソコンを買いました。3年次の夏休みに就職活動のために用意をして、実際に就職サイトに登録し、それを見るようになったころには完全に就職活動を意識するようになりました。秋ごろですかね。

【越智】 私も下井君と同じで、実質的に就職説明会に参加したのは年明けの1月ですが、やはりパソコンを使って就職サイトを見るようになったのは3年次の11月上旬ぐらいですね。私は英語学科にいて英語が話せないという意味がないと思い、1年間個人留学をしていました。帰国したのが10月末でしたので、そこで大学側のガイダンスを聞いたときには遅れていると思いましたね。急いで登録をして就職活動を始めたんですけど、結果的に就職活動の準備は早かったと思います。

【日高】 私は皆さんと違って、最初は卒業してから留学をしようと思っていました。ですから第1回目、第2回目の就職ガイダンスには出ていたんですけど、それ以降はもう出席せず、留学が就職する

かで悩んでいたんですね。そこで、就職センターへ相談に行っている話をしているうちに、就職に自信がないので逃げているだけではないのかということに気づきました。本当にスタートは遅かったんですけど、やっぱり就職しようと思いを活動始めたのです。本当はホテルに就職したかったのですが、英語もそんなに話せないし、ホテルは無理だと思っていたので、初めは外食関係を中心に就職活動を始めました。2月の終わりごろでしたね。自己分析もかなり遅かったので、すごく焦りました。

【司会】 日高さんは最終的にはホテルに内定していますが、外食関係からホテルへ変えようと思ったきっかけは何だったのですか。

【日高】 外食関係を受けていると、面接で志望動機を聞かれたとき、どうしてもうそといいますか、ここに就職したいという気持ちが出てこなくて、自分はやはりホテルに就職したいなとすごく感じ、それからはホテルに絞りました。

【高城】 私は皆さんと違って短大生なので、求人大学の人が終わってからという形が多かったですね。就職活動を始めたのは3月ぐらいで、パソコンで検索しても説明会に行っても短大の求人はなく、一度はあきらめてしまったのですが、1年次のころから学校推薦で決めたいという思いがあったので、気持ちを入れ替えて頑張ることにしました。そこで私は学校推薦のある地元京都の月桂冠への就職を希望し、就職センターのかたに「もし求人があれば知らせてほしい」と頼みました。その後連絡をいただき、受けたところ内定を得ることができました。

【司会】 それでは、今度は企業研究や会社訪問を通じて、いちばん何に気をつけていこうと考えていたのか、あるいは何を基準に業種や会社を絞り込んでいったのか、皆さんの経験をお聞かせください。

【下井】 何社も回っていくうちに、自分の中で価値観が変わってきました。それまでは、企業のイメージであるとか、世間のうわさというのですか、そういうのに左右されることが多かったんですけ

ど、実際は人事部のかたがその会社の雰囲気をかもし出しているということが分かったのです。例えば、今は不景気の時代なので、学生がいっぱい押しかけて来るじゃないですか。するとその中から選んでやっているんだという態度を執る会社もあり、ちょっと何か違うなという感じを受けたのです。向こうも真剣に選んでくる、こっちも言いたいことがあるという、お互いにつつかり合える会社を選んでいきました。



下井 孝祐
 経済学部 4年次生

【日高】 私は先ほども言ったとおり、ホテルへの夢を持ちながら、自信がなくて違うところばかりを受けていたのですが、そのときは会社の下調べをほとんどしなかったですね。ところが、ホテルを受け始めてからは、実際にホテルの中まで入って行って雰囲気を見たり、どういう人たちがいるのかなあとかお客さんの層まで調べました。それが志望動機を考える上でも役立ちましたし、自分が本当にやりたいのはこれなんだという確信みたいなものが出てきて、自分の考えをどんどん言えるようになりました。

【越智】 パソコンでの情報収集だけでなく、自分で感じる会社の空気が自分に合っているかどうかということも重視してきました。職種の話になりますけれども、私は留学の経験を生かしてまず英語を話せるということで、海外に拠点があるかどうかを会社選びの第一条件にしてみました。それに、興味のあるパソコンとかIT関係ですね。自分がやっているともしろそうだという、興味本位といえますか、楽しく仕事ができそうなところに絞ってきました。

【司会】 越智君の場合、留学したことがどう生かされているのか。また、時期の問題で何か苦勞したことはありませんか。

【越智】 私は個人が経営している語学学

校に留学していて、そこは一か月単位で入学、卒業があります。交換留学などのように期間が決まった留学ではなくそのような学校に行くのであれば、期間は自分で設定できるので、問題ないと思います。海外に留学したメリットは、やはり日本には勉強できない生きた英語が身についたことです。会社もその点をかなり評価してくれました。

【司会】最近、インターネットによる就職活動が盛んなようですが、実際それを活用しましたか。

【高城】短大では求人件数が少なく、見ても意味がないものばかりなので、最後はパソコンの使用をやめました。

【下井】企業とのやり取りは、全部メールでという感じになっていて、現在は説明会や面接の予約もインターネット上でやることになっているので、僕の場合はパソコンを開くと、常に企業から求人メールが入ってくるようになっていました。1日に何十件と入ってくるので、興味のない企業、興味のある企業、志望企業というようにホルダーに分けて整理するようにしました。



越智 真太郎
外国語学部 英語学科
4年次生

【越智】会社独自のホームページがあれば、新入社員の声だとか、私はこういうふうに入社したという生の声が聞けるんですね。私が住んでいるのは和歌山の田舎の方なので、遠くにいても情報が入ってくるホームページは、私にとって会社訪問の一部だと思います。そのあたりがインターネットのいいところではないかと思います。

【日高】私も越智さんと同じで、会社のホームページを見て先輩がたの意見を聞いたり、ホテルの就職案内のホームページを片っ端から開いて情報を集めました。

【司会】インターネットを使って会社の絞り込みをやったというお話でしたが、今度は実際に会社の面接を受けるとき、

どんなところに注意していたのかお話しください。

【下井】面接でのポイントは、やはり志望動機だと思います。それに面接官の目を見て自分の言いたいことをきちんと伝えるかどうかということですね。しかし、意見を言うといっても、ある程度下準備をしていないと言えないので、そういう意味で企業研究は欠かせないと思います。それにニュースは見たほうが良いと思います。

【越智】受ける会社の社長の名前とか資本金は覚えていたほうが良いと思います。細かい情報までしっかり調べていたほうが面接のときに話も広がりますし、実際に役に立ったこともあります。

【日高】初めは自分に自信がなさすぎて、何と申しますかそばっさり言っていた感じで（笑）、何回も受けているうちに自分が本当に何を思っているのか、どういうことを言いたいのかが分かってきました。それから、自分が本当に思っていることを表現できましたし、入社したいという熱意を伝えることができました。

【高城】月桂冠では志望動機を聞かれませんでした。内定してから人事のかたに「なぜ志望動機を聞かなかったのですか」とお尋ねしたら、「みんな同じようなことしか言わないから」とおっしゃっていました（笑）。面接はとても楽しい雰囲気、人事のかたも受ける人の気持ちを出せるように気配りされていました。私も心掛けていた笑顔が守れてよかったと思いました。

【司会】特に印象に残ったことはありますか。

【高城】第1日目の試験のときに英訳が出たんですけど、よく分からなくてあまりできませんでした。それを面接のときに突っ込まれたことが印象に残っています（笑）。

【司会】たぶん高城さんの場合は、学校推薦ということで、学校である程度絞り込んで推薦されたということもあって、志望動機など聞かれなかったかもしれませんが、しかし、それだけにほかの人と

は違った自分をアピールするものを持っていないといけないと思いますね。そのことと関連して、皆さんは、自己分析をやっていると思うのですが、自分の特性、個性、適性というものを把握するために、エントリーシートを書く際にはどんなところに気をつけていましたか。

【下井】僕の場合は、自己分析をあまりやっていないんですよ。しかし、その分エントリーシートは何枚も書きましたね。エントリーシートというのは、企業によって聞いてくるのが違うんです。それに合わせて何枚も書いているうちに、本当の自分というのが見えてくるんです。それが自己分析につながったのではないかと思います。僕の意見としては、エントリーシートを書くには時間もかかるし、難しい面もありますが、何枚も書いたほうが良いと思います。結果的にそれが成功につながったのではないかと経験からも言えます。

【越智】話しにくいんですが、私も自己分析で自分をさらけ出すようなことはしなかったんですよ。留学で海外へ行って、日本では出せなかった自分が出せたことや、自分にはこういう面もあったのかと気づいたことが、自分にとっては自己分析になったのかもしれないですね。エントリーシートについては、あまり書いたことがありません。

【司会】書かなくても大丈夫だったのですか。

【越智】ええそうですね。私が使ったのは、一括エントリーという方法です。どんな職種に就きたいか、どんな資格を持っているかなどを書いて送信すれば、それだけでもエントリーされるというシステムでしたので、エントリーシートはあまり書きませんでした。

【日高】私は自己分析を始めたのが遅かったので、試験や面接を受けながら自己分析をしていたという感じなんです。私も越智さんと一緒にあまりエントリーシートを書いた覚えがないんです。面接を受けるたびに、自分のやりたいことや考えていることが分かってきていたのと、それほど苦労はありませんでした。

【高城】エントリーシートは全然書きませんでした。参加票という形で履歴書に似たものは書きました。書くために自己分析をしなければいけなくて、そこで行き詰まって就職センターに何度も通いました。履歴書もそうですが、就職センターのかたのおかげでとてもいいものができたと思います。

【司会】かなり就職センターのお世話になったようですね。学生によっては就職センターを知らない人がいて、あまり利用されていないようなのですが、皆さんは就職活動で、センターをどう利用したのかお話ししていただけませんか。

【下井】僕は就職センターをよく利用したほうだと思います。例えば、履歴書を初めて書いたときに、親や友達に聞くのは何か抵抗があったんですよ。恥ずかしいとか……。そういうときに、就職センターに行ったら素直に見てもらえることができ、親切に添削してもらいました。また、面接などに落ちて落ち込んでいるときも、いろいろ話を聞いていただき励まされました。「よし明日からまた頑張ろう」という気にもなれましたし、就職センターは大いに利用すべきだと思います。

【越智】私は内定を二つ頂いて、どちらにしようか悩んでいたんですよ。そのときに就職センターへ相談に行き、親身に話を聞いていただきました。ガイダンスも、電話のかけ方や話し方など就職活動の流れを知る上で、活用したほうが良いと思います。



日高 恵子
国際学部 4年次生

【日高】私も初めは留学か就職か悩んでいるときに、就職センターに行っている話を聞いていただきました。あのときは適切なアドバイスをいただき、相談に行ったら本当によかったと思います。履歴書の書き方についてもいろいろ指摘してくださり、もっと早く見ていただければ

よかったと後悔しています。
【高城】「就職しなければ」と友達と話していて、一度ガイダンスに行ってみようと思い、行ったのですが、すごく焦られるガイダンス（笑）で、せっぱ詰まっていた。就職センターも最初に行ったときは勇気が必要だったのですが、友達と二人でよく通いました。就職センターのかたに企業情報から就職活動の進め方まで親切に教えていただき、本当に助かりました。

【司会】これだけ就職環境が厳しい中で、就職の内定を得るのは難しいと思うんですね。そこででもらえなかったときの心構えみたいなものを、皆さんの経験から話してください。

【下井】実際に就職説明会に行ってみると分かるのですが、本当にすごくたくさんの人なんです。この中から選ばれるのかという不安はいつもありました。実際に落ちたときに、その会社と縁がなかったと思うのは簡単ですけど、やはりショックですよ。そんなとき先輩に「就職活動は忍耐力が勝負の決め手だ」と言われたんですよ。「とにかく、途中で投げ出すのではなくて、長い目で見て、落ちてそれが次のステップにつながるんだ。それを自分の肥やしにして頑張れば、それで成長していけるんだ」と言われたんです。本当にそうだと思います。

【越智】私もかなりの数で縁がございせんでした（笑）。縁がないという言葉は優しくていいですね。落ちたのは自分の能力がだめだったのではなくて、向こうと合わなかったんだという、ある種の楽観です。悲観的になっても何も生まれてきませんし、むしろ自分はこんなに優秀なのに、私を探らなかつた会社は損したなと考えを変えるんですよ。また、落ちて受けてきた面接の中で得るものもあったんですから、自分のどこが悪かったのか反省して、今の自分に満足せず、いつも磨きをかけていく姿勢を持つようにはしていました。

【司会】今のお話からすると二人ともとても前向きな姿勢で活動されたと思いま

す。日高さんと高城さんは女性という立場で、また、高城さんは短大ということもあって、就職活動ではいろいろ苦労もあったと思うのですが、それをどのように乗り越えていったのかということも含めてお話ししていただけませんか。

【日高】私は最初、外食関係の会社を受けていたのですが、そこで人事のかたからよく聞かれたことは、結婚したらどうするのか、女性は結婚したら家庭に入るほうが良いのではないかとことでした。私は働き続けたいと言ったのですが、実際のところ「何でそんなことを聞くのだろう」と思いました。ホテルを受けだしてからは、女性が多いんですね。ですから女性だからどうという感じは受けなかったんです。とにかくたくさん落ちましたね。自分が第1志望にしている会社に落ちたときは、本当にショックで落ち込みました。しかし、そのとき友達から「立ち止まっていたらゴールは見えないよ」と言われたんです。本当にそうだと思うので、それからは落ちて前向きに考えるようになりました。落ちるごとに成長していく自分がいたので、それが自信となって、自分が言いたいことも言えるようになりましたし、おかしいんですけど、落ちるごとにどんどん前へ進むことができました。

【高城】私は短大で女性ばかりなので、大学のかたの女性と男性という問題については分からないんですが、短大の場合、メーカーではすごく厳しいと思います。また、さっきも言ったように、大学が終わった後にエントリーが始まるので、周りでは就職が決まっていっている人も一方で、まだ求人が出されていないという状況で、就職活動もできず、その点ですごく困りました。また、受かる自信のあったところから内定を得られなかったときはショックでした。面接で突っ込まれた質問をされて動揺し、うまく答えられなかったのが落ちた原因だろうと思って反省し、次からはそんなことがないようにしていこうと気持ちを入れ替え、立ち直って頑張りました。

【司会】皆さんの話を聞いていますと、落ちたこと自体を前向きにとらえて、それを自分の成長の糧にして積極的に次の就職活動へ生かして行っている。これは大変大事なことだと思います。では次に、複数の内定を得た人は、どのようにして1社に絞込んだのか、また、内定を得て誓約書を出しなさいといわれたとき、どのように対応したのか話してもらいたいです。

【越智】私が1社目の内定を頂いたのは大阪にある、ちょっと小さな会社だったんですね。10月1日からでない「誓約書」は出せないで、口約束の形で「きてくれますね」と聞かれて、「はい行きます」と言ったのですが、そのあともう1社内定を頂いたんですよ。職種もほとんど同じだったのですが、最終的に判断したのは、やはり会社の大きさと将来性ということでした。

【日高】私は二つのホテルから内定を頂いたのですが、サービスレベルが高く将来性のあるホテルで働きたいと思い、今のホテルに就職しようと決めました。また、受けているときから今のホテルの社長のお考えに共感し尊敬しており、ぜひ働きたいと思っていたので、内定を頂いたときもほとんど悩むことはありませんでした。

【下井】僕は、伊藤園から内定をいただいているのですが、実は最終面接のときにすごく怒られたんですよ。

【司会】何で怒られたの。

【下井】自分の発言に対して怒られまして、そのとき必死になって自分の意見を言うことができ、それで僕のことを理解していただき、その場で内定を頂いたんです。そのときに本当に真剣にぶつかってきてくれたということを非常に感じました。

【司会】最後に、これから就職活動しようとしている後輩たちに、自分の経験を通してメッセージを送ってください。

【下井】失敗を糧にして頑張れた面もあるのですが、その中で一番の失敗要因に、集団面接があります。他大学の学生と一緒にいるんですよ。そのとき隣に座って

いる学生が有名大学だったりして、自分が見劣りするんじゃないかと縮こまったり、逆に自分をよく見せようと背伸びしたりしたときは、内定をもらえなかったですね。しかし、そうではなくて、ありのままの自分を見てもらおうという考えに変わってからは、物おじせず面接を受けることができ、それが評価され内定につながったと思っています。やっぱり背伸びではなくて、ありのままの自分を見てもらうように頑張りたいです。

【越智】自分で何か一つでも誇れるものがあれば、それは自分の最大の武器なので、先ほど集団面接の話もありましたが、たとえライバルが有名大学であっても負けたくないと思うのです。これだけは人に絶対負けたくないものを持って、自分を内面から見つめ直してほしいと思います。

【日高】私も学校がどうというより、本当の自分を見せる就職活動をしてほしいと思います。私も自分に自信が持てなかったり、背伸びばかりしていたんですけど、これではだめだということを強く感じました。常に前向きに、立ち止まらずに頑張りたいです。



高城 紀子
短期大学 経営実務科
2年次生

【高城】越智さんが言われたように、自分の強みというもの、就職活動では大事だと思います。その点で私がいちばん大事だと思うのは、自己分析だと思います。自己分析をすることによって、自分がどういう人間なのか分かりますし、自分の持っている強みもアピールすることができます。自己分析だけはしっかりしてほしいと思います。

【司会】それぞれ自分の経験に基づいて語っていただいたのですが、就職活動は、その過程の中で自分とは何か、自分の個性について見つめ直す機会になっていると思います。これは後輩たちにとっても参考になるし、助言にもなると思います。ではこれで座談会を終わります。ありがとうございました。



画商になるためのヨーロッパ人旅



経済学部 4年次生
末広 良

SPOT

私は一人の画商を目指す者です。それ以上でも、また以下でもありません。現在、大阪にある浜崎健立現代美術館で見習いをしながら、画商になるべく勉強をしています。画商とは、作品を創るアーティストを全般的にマネージメントするものです。アーティストの発掘から育成、作品の見極めや設置、そして広報から販売までこなす職業です。特に私は新しい発想を重視する現代美術を好んでいます。例を出すならば知名度の高いAndy=Warholなどの作家がいます。

そして、画商になるための勉強をするべく「夢を実現させよう！」の奨励金制度に応募し、今年の夏期休暇に念願だったヨーロッパへ行くことができました。ヨーロッパはご存じのとおり世界的に有名な美術の優れた地域で、この中でも私が最も行きたかった、ロンドンとパリ、二都市に滞在し、朝から晩まで美術館とギャラリーを追っていました。

最初はロンドンに入りました。ここは年々現代美術が盛んになってきている都市で、雑貨やインテリア、建築物も含めて新しい発想の優れたものが数多くありました。私はロンドンの現代美術館の中で最も有名なTATE-modernに行きました。ここは、1年前に新しくできたTATE-galleryの現代美術のための別館です。興味深い作品がたくさんありました。ギャラリーは、さすがにけた外れに多く、若手ばかりを扱う新顔のギャラリーから、今はとんでもない値段がついている巨匠の作品を扱うベテランギャラリーまで盛りだくさんあり、鳥肌が立ちました。作品の設置のしかたも様々まで、「こんな設置のしかたもあるんやな」と気づかされる部分がたくさんありました。設置に使うパーツの一つひとつにも見たことのないものも多くありました。スポットの当て方にも工夫が凝らされ、その空間の雰囲気とびつたり合っていました。直接、作品にスポットを当てる方法、作品からの反射を抑えるための間接照明、ロンドン特有の白夜を生かし、部屋にはスポットのないガラス張りの太陽光線のみで作品を照らす方法など様々でした。街並みにも美術的な要素が含まれていて、私が特に気に入ったのが地下鉄のGLOUCETER ROAD駅で行われた、「PLATFORM FOR ART」というプラットフォームをギャラリーにしようという企画で、日本のようにただポスターを張っているのではなく、スポットの当て方もきちんと考えられ、ギャラリーさながらの素晴らしい企画でした。



次にパリに入りました。ロンドンと同じくギャラリーは数多くありました。しかし、美術館の規模はロンドンよりも頭一つ出ていたと思います。大規模な美術館のほとんどを訪れることができました。現代美術館で有名な、世界中で最も行きたかった美術館、ポンピドゥ・センターにも行くことができました。ここは超現代的建築物であり、作品の豊富さに加え、ただ展示室があるだけでなく、中にはミュージアムショップ、図書館、インターネット施設、多目的ホールなどがあります。私がこの多目的ホールに行ったときはなぜかビール片手に踊る若者がいました。ロンドンと同じくギャラリーの画商やスタッフはほとんどどれもが気さくで話しやすく、開館中にもかかわらず友達とチェスに熱くなる画商からハンバーガーにむさぶりついている太っちょな画商、スーツを着込んでパリッとしているように見せながらもきれいなお客様に見とれている画商など（もちろんまじめにデスクワークや接客に励んでいる画商もいますが）作品や設置のしかたも様々なら画商のキャラクターも様々でした。ロンドンのギャラリーと違った点は、ロンドンのほうが斬新で現代的なのに比べて、パリは何か貴録と歴史を感じさせられました。

その後、二都市に行きました。ここは私の最も好きなアーティストYves=Kleinの生地です。私は彼の情報を少しでも得ようと、二都市へ向かいました。かなりリゾートっぽい街かと思いきや、歩き回っていると二都市現代美術館やギャラリーもあり、単なるリゾート地ではありませんでした。Yves=Kleinの生地だけに、ほかでは手に入らないような彼に関する様々な情報を得ることができました。二都市現代美術館では今まで見たことのない彼の原画を数多く見ることができ、街の交差点には彼の名前がついているYVES KLEIN PLACEという場所までありました。「二都市にYves=Kleinあり」という感じでした。二都市にあるギャラリーの画商に彼のことを聞いてみると「彼の作品は今とても高価で、私たちのように街中にあるような小さなギャラリーではとても手に入らない」と言っていました。彼の作品の一つに「青いスポンジ」があるのですが、これのいちばん小さいクラスで一つにつき約\$40万するそうです。

今回の旅で様々な知識が身につきました。何を見ても、どこに行っても、だれと話しても、すべてが勉強になり確かな経験となりました。しかし、まだまだ時間が足りず、また行かなければなりませんし、これに満足するつもりでもありません。これからも画商を目指し努力するのみです。ありがとうございました。



CLUB ACTIVITIES

CLUB

ACTIVITIES

『関西学生サッカー秋季リーグ戦』2部Bブロック初優勝!!

同志社大学(1部9位)との入れ替え戦は惜敗、初の1部リーグ昇格を逃す!

秋の関西学生サッカーリーグ2部Bブロックにおいては、7勝0敗2引き分けの好成績を収め、見事初優勝を飾りました。2位の古豪、大阪商業大学との直接対決となった最終戦では、0対0の引き分けに終わりましたが、勝点差1をつけて初優勝となりました。

1部リーグへの自動昇格を懸けた2部Aブロック1位の奈良産業大学との対戦では、1対1から延長戦までもつれながらもVゴール負けを喫してしまい、残念ながら1部リーグへの自動昇格を逃してしまいました。

その結果2部リーグ総合2位となり、1部9位の同志社大学との入れ替え戦に回り、11月10日(土)・17日(土)の両日試合が行われました。1敗で迎えた17日(土)の入れ替え戦第2戦においては、2点差以上での勝利が1部昇格への条件というプレッシャーの中、前半を終えて2対0でリード。しかしながら、後半2点を返され、結果1敗1引き分けとなり、惜しくも1部リーグ昇格を逸してしまいました。



1-2部入れ替え戦(対同志社大学)高槻萩谷サッカー場

昨年の2月、新たに高間ヘッドコーチが就任され、新チームのスタートを切りました。“一人ひとりの意識改革”をテーマに、「当たり前前」の意識を「当たり前前」という意識を持ち、「基本の再確認」や「チーム全体が上を目指す努力をする」という改革に取り組みました。さらには、夏の静岡遠征をはじめ、Jリーグチームと練習試合を数多くするなど、レベルの高い練習にも取り組みました。その結果、チームの中に信頼や団結が少しずつ強くなるのを感じました。結果的には春季・秋季リーグでの1部リーグ昇格は果たせませんでした。1部リーグを目指し、勝負に勝てるチームとして大きく変わっていくのを感じました。試合に出場できなかった選手たちの応援やその思いを胸に秘め戦った選手たち。勝つことを信じ一緒に戦った監督、コーチそしてスタッフたち。チーム一丸となり臨んだ試合も全試合が終わったとき、本当に悔しい反面、素晴らしいチームに成長したと実感しました。

= 経済学部 4年次生 黒地 聡 (主将) =

主務の仕事は「選手がベストな状態で試合に臨める環境を整える」ことであり、そのことが試合の勝敗に大きな影響を与えます。秋のリーグ戦では、優勝という最高の結果を収めることができ、それまでの苦労が報われた瞬間でした。しかしながら、1部リーグ昇格を果たすことができず「優勝の喜び」よりも「悔しさ」が残ったシーズンになりました。自分に足りなかったことや、チームに足りなかったことを新たな課題として、今春のリーグ戦では今回以上の「喜び」を残したいと思います。

= 経済学部 3年次生 山本 英伸 (主務) =



関西学生サッカー秋季リーグ(2部Bブロック)表彰者 ベストイレブン

GK(ゴールキーパー)
経済学部 2年次生
吉武 和治



FW(フォワード)
流通科学部 2年次生
楠 洋平



DF(ディフェンダー)
流通科学部 1年次生
星野 織



MF(ミッドフィルダー)
経済学部 1年次生
佐々木 勇人



CLUB SCHEDULE

CLUB

日 程	クラブ名	行 事 ・ 大 会 名	場 所
3月 6日(水)	スキー部	全関西学生スキー選手権大会(至11日(月))	長野県野沢温泉村野沢温泉スキー場
19日(火)	ゴルフ部(女子)	レインボーウィーネトーナメント(至20日(水))	ハワイ州カネオヘクリッパーゴルフコース
24日(日)	弓道部	新人戦(至4月21日(日))	関西学院大学、近畿大学 ほか
31日(日)	合気拳法部	愛知県硬式空手道選手権大会	名古屋市枇杷島スポーツセンター

保健センターだより

『健康』 について

試験 期間中において何といても大事なのが「健康」の2文字。強力なウイルスの感染で起こるインフルエンザは、寒さが厳しくなる12月末から年明けの2月にかけて流行します。試験勉強のため睡眠不足などで体力、抵抗力ともに弱まりやすいこの時期は、ウイルスがすきあらばとねらっているわけです。肝心の試験当日に風邪を引いて試験を受けられなかったり、実力が十分に発揮できなかったといったアクシデントに見舞われないためにも、しっかりと健康管理に取り組みたいものです。

◆ 風邪対策

- ① 外から帰ってきたらうがいをしましょう。(特に人込みの中に入ったときは念入りに)
- ② 栄養のバランスを取りましょう。
ビタミンAはウイルスの侵入口である鼻や気管支の粘膜を丈夫にし、ビタミンCやたんぱくは風邪に対する抵抗力を高めてくれます。

【ビタミンAを多く含む食品】

うなぎ、レバー、ブロッコリー

【ビタミンCを多く含む食品】

みかん、いちご、キウイ
芽キャベツ

【たんぱく質を多く含む食品】

肉、牛乳、チーズ、豆腐、刺身

「風邪だな……」と感じたら、少量でエネルギーが高く、消化のよい、温かい食べ物を取りましょう。
例：雑炊、鍋焼きうどん、ホットレモン、さつまいもがゆ、たまご酒など。

たまご酒の作り方

①右の材料をよく混ぜる



②沸騰させてアルコールを飛ばす

- ③ 部屋の換気をしましょう。
閉め切った部屋にはウイルスがいっぱいいます。冬は寒いので閉め切りにしがちですが、1時間に一度は窓を開けて換気をし、ウイルスを外に出しましょう。
- ④ 適度な湿度を保ちましょう。
冬風邪ウイルスは低湿度を好みます。加湿器を利用するか、水の入ったコップを部屋の中に置いておきましょう。
- ⑤ 温度差をなくしましょう。
暖かい部屋から急に外に出て冷たい空気に触れたり、またはその逆の場合に風邪を引きやすくなります。部屋を暖めすぎないようにエアコンを調節しましょう。
- ⑥ 睡眠を十分取りましょう。
ほとんどの風邪は自己管理と家庭療法で治るものですが、症状により限度があります。せきが長く続く、熱の下がりが悪い、10日以上風邪の症状が続く、などのようなときは、肺炎や気管支炎などになっている可能性があるため、病院で診てもらいましょう。

◆ 試験期間の食事

- ① 朝食はしっかり食べましょう。朝食を抜くと長時間絶食状態となり、血糖値が下がって脳細胞の働きが鈍くなり、能率低下の原因となります。時間のないときもせめて牛乳1杯は飲むようにしましょう。
- ② ビタミンB1は、頭の回転をスムーズにします。豆、豆製品、魚、肉類などを取りましょう。
- ③ カルシウムは精神安定や集中力を高めるのに必要です。小魚、牛乳、チーズ、海草、緑黄色野菜などに多く含まれます。

これらのことを参考にして試験を乗り切ろう!!

CAMPUS NEWS DIGEST

イルミネーション



〔12月1日(土)～25日(火)
5・17号館前〕
本学では恒例のイルミネーションを実施しました。キャンパス内の大小の木々にイルミネーションを施し、暗がりに浮かぶ時計台と木々にきらめく「光のファンタジー」を今年度から一般のかたがたにもご覧いただけるよう開放し、お楽しみいただきました。

保護者就職説明懇談会



〔12月1日(土)・2日(日) 5号館地下1・2階〕
株式会社 明光商会 取締役大阪支店長 林 保博 氏を講師としてお迎えして「企業の求める人物像」と題し、約1時間にわたる講演をしていただきました。雇用環境・企業選択のポイントを中心に詳しくご説明いただき、採用する側の着眼点や家族の支援方法等をお話いただきました。午後から行われた個人懇談では、希望に添って具体的に説明を受けることで、より現実のものとしてとらえられたようでした。両日とも多数の保護者のかたにご参加いただき、熱心に講演を聴かされている保護者の姿が印象的でした。

学内講演会



〔12月3日(月) 5号館地下2階01教室〕
ハワイ州観光局ロイド・ウネバサミ氏をお招きして、「ハワイ州観光局の役割」というテーマでご講演いただきました。ハワイにおける観光業と経済や住民との関係のほか、最近のアメリカ同時多発テロに伴う観光客の減少、そしてその対応策についてもお話いただきました。

2001 フェニックス フェスティバル ～ゴスペル&ハンドベルコンサート～



〔12月13日(木)
5号館地下2階アトリウム〕
2001年の最後を飾る、ゴスペル&ハンドベルコンサートが開催されました。ニューヨークからお招きした6人のアーティストが、スタンダードナンバーや日本のヒット曲を本場の雰囲気そのままに歌い上げました。また、この季節にふさわしいハンドベル演奏が花を添え、会場をクリスマスムード色に包み込みました。

Year End Party



〔12月14日(金) K.M. 36 BANCHI〕
国際交流プログラムの一環として、Year End Party (外国人留学生と在学生の交歓会) が開催されました。本学に現在留学中の8人の外国人留学生と本学学生が互いに親睦を深め、友好関係を築く場となりました。実施に際しては、有志の学生グループがパーティーの内容を企画・準備し、当日の進行も行いました。クイズやゲームを交えた立食形式のパーティーは大変盛り上がり、参加者は互いに交流を楽しみました。

INFORMATION

February ~ March

庶務課

卒業式

3月19日(火) I部 10:00開式 流通科学部、経営科学部、法学部、外国語学部、大学院 商学研究科、大学院 法学研究科
II部 11:30開式 経済学部、国際学部、短期大学 経営実務科、短期大学 国際文化学科、大学院 経済学研究科、大学院 国際学研究科

場 所：体育館 (保護者の皆様も自由にご出席いただけます)

学生課

定期健康診断

下記の日程で定期健康診断を実施しますので、必ず受診してください。

実施日	時間	対象	備考	
2月	14日(木) 9:00～16:30	男	99年度生、大学院生 短大生、介護実習生	
	15日(金) 9:00～12:00	女		
3月	27日(水) 9:00～12:00	女	99年度生(未受診者) 短大生(未受診者)	98年度生以上も含む
		男		
	28日(木) 9:00～16:30	男	00年度生、01年度生	
	29日(金) 9:00～16:30	男	00年度生、01年度生	
	30日(土) 9:00～16:30	女	00年度生、01年度生 大学院生、短大生(未受診者)	

※定期健康診断を未受診の場合は、費用自己負担(5,000～10,000円程度)にて個人的に受診していただきます。日時等の不都合は調整しますので、保健センターまでご連絡ください。

謝恩パーティー

3月19日(火) 17:00開演
会 場：リーガロイヤルホテル(大阪) 光琳の間
対 象：卒業生 (平成13年度)

国際センター

アメリカ同時多発テロに関連して、世界情勢の緊迫が解消する見込みが立たない中での研修の実施は危険度が高いと判断し、平成13年度春期海外研修および海外インターンプログラムは取りやめとなりました。

TIMETABLE

2月 12日(火)	学年試験終了(大学院)	3月 1日(金)	修士論文口述試問(大学院 商学・経済学・国際学研究科)〔至7日(木)〕
13日(水)	後期試験終了(短期大学)	6日(水)	後期追試験・再試験(大学・短期大学)〔至9日(土)〕
18日(月)	後期試験終了(大学)	14日(木)	後期追試験・再試験合否発表(大学・短期大学 卒業年次生)
	ゼミナールⅡ説明会(大学2年次生) 〔ゼミナールⅡを次年度履修希望する学生は必ず出席してください。〕	19日(火)	卒業式(共通)
19日(火)	修士論文口述試問(大学院 法学研究科)〔至22日(金)〕	26日(火)	前期オリエンテーション(大学・短期大学)〔至4月9日(火)〕 〔次年度の履修を決定する大切な行事ですので、学生は必ず出席してください。〕
3月 1日(金)	卒業発表(大学・短期大学) 後期追試験・再試験受験申し込み(大学・短期大学)〔至2日(土)〕	31日(日)	学年終わり(共通)